



ハメ ドウースト



みんな ともだち!



Tehran
Japanese
School

学校便り「ハメドゥースト」
2024年度 第2号
2024年5月30日発行

子どもの声が響く日常を喜ぶ

テヘラン日本人学校 校長 西田隆之

ついに、5月26日から学校が再開しました。実際、5月21日からの再開の予定でしたが、ライシ大統領の突然の訃報により、5日間は喪に服し、休校期間を延長し、一部児童生徒に特別授業をするという対応をしておりました。そのため、本格的な学校再開は、5月26日になりました。これまでの間、保護者の皆様をはじめ、運営委員会、大使館、そして文部科学省など、多くの方々に支えていただいたおかげです。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真

校長室にいても、教室からは、子ども達の声とともに先生の元気な声も聞こえ、休み時間の校庭からも楽しそうに遊んでいる姿が見られました。やっと、学校が学校らしくなってきたと感じています。学校は子どもがいてこそ、学校と言えます。本当に嬉しく感じます。

こうした当たり前の学校の姿ですが、失ってみると、その有難さ、幸せを感じます。私が日本へ一時帰国した際、知り合いの方々から「平和な社会は、当たり前だと思っているけど、そうではないのですね」という声を聞きました。まさに、生命の安全が守られているからこそ、子ども達は学校という場で自由に生き生きと活動できます。その幸せを今回の休業期間によって、より強く感じることができました。

次に期待することは、本校全児童生徒が揃うことです。その日は、そう遠くありません。全員で学べる、生活できることを、みんなで喜び合いたいと思います。それまで、首をなが〜くして待っています。

オンライン全校朝会

5月26日、朝の時間にオンラインによる朝会を行いました。日曜日の中途半端な時間設定にもかかわらず、ほとんどの子ども達がオンラインで参加してくれました。



写真

校長講話では、『目標を実現する気持ち』をテーマに話をしました。一人一人に今年度の目標を聞くと、「努力し続けられる人になりたい」「楽しい学校を創りたい」「二重跳びを100回連続でする」など思い思いの抱負を語ってくれました。

英語の「～したい」という表現には、“want to”と“would like to”という二つの言い方があります。“want to”の方が強く、きつく感じられるのは、そもそも「足りないもの、欠けたものを補う」という意味が含まれているためです。一方、“would like to”は丁寧で軟らかい表現です。そこで、「あなたは、その目標をどれぐらいの気持ちで実現したいと考えているのか」を問いました。

その答えは、これからの子ども達の姿を見て、感じようと思います。

校舎玄関前の花壇を整備しました

5月は、いろんな種類の花が咲き乱れる季節です。そこで、校舎玄関前の花壇も整備しました。種も撒いているので、これからどんな花が咲くか、お楽しみに。



【6月行事予定】

- 3日 ホメイニ師命日
 - 4日 入学式
 - 8日 開校記念日
 - 9日 委員会活動
 - 13日 避難訓練・引き渡し訓練
 - 24日 授業参観・個人懇談
- ※運動会は10月11日に延期

さあ、みんなが集まる6月がやって来ます。夏休みまでの2か月間、アクセル全開で突っ走るよ!